

「学生調査の理論と調査票の設計」

京都三大学教養教育研究・推進機構 教育 IR センター 特任准教授
児玉 英明

概要

日時

平成 25 年 9 月 10 日（火）
14 時～16 時 30 分

場所

京都府立大学
本館・合同講義室棟 3 階 第 4 講義室

講師

谷田川 ルミ 氏
（芝浦工業大学工学部 共通学群 准教授）

講師略歴

上智大学大学院総合人間科学研究科教育学専攻満期退学
博士（教育学）
立教大学大学教育開発・支援センター学術調査員を経て現職

【専攻】

- ・教育社会学
- ・高等教育
- ・ジェンダー論

大学生調査の分析を中心に、現代の大学におけるキャリア支援、学生支援について研究している。

【著書・論文】

- ・谷田川 ルミ「現代大学生の人間関係ー『先生』『友だち』の存在が大学への着地を促す」『第 2 回大学生の学習・生活実態調査』Benesse 教育研究開発センター、2013 年

- ・谷田川 ルミ「大学生生活の充実度の分析」『バブル崩壊後の学生の変容と現代学生像』全国大学生生活協同組合連合会、2012 年

- ・谷田川 ルミ「戦後日本の大学におけるキャリア支援の歴史的展開」『名古屋高等教育研究』名古屋高等教育研究センター、2012 年

講演要旨（谷田川 ルミ）

近年、学生の多様化が進む中で大学教育の質保証が問われている。各大学においては質保証を進めるためにシラバスの充実やカリキュラムの構造化、成績評価の厳正化など、様々な方策を取り入れている。しかし、こうした方策を十分に機能させ、有効な大学教育の質保証を行うためには、各大学の教育の現状や学生の実態を客観的なデータとして把握することが必要となってくる。

今回はこうした現状を踏まえたうえで、有効な質保証、学生支援に向けての重要な基礎資料となる大学生調査について注目する。大学生調査を真に機能させるためには、各大学における教育方針・目標を念頭に置いたうえで、調査を通じて「何を把握したいのか」、「何を明らかにしたいのか」をあらかじめ明確にした調査票の設計が望まれる。そこで本報告では、大学生調査における調査票の設計において必要な事項や気を付けるべき点について、講師がこれまでかかわってきた大学生調査を事例として紹介する。そして、実際のデータの分析の例を取り上げながら、大学生調査データをどのように教学の質保証に生かせるのかについて、参加者の皆様と議論していきたい。

第3回公開研究会での論点 (児玉 英明)

本研究会から学ぶことは、「大学生調査を真に機能させるためには、各大学における教育方針・目標を念頭に置いたうえで、調査を通じて『何を把握したいのか』、『何を明らかにしたいのか』をあらかじめ明確にした調査票の設計」ということだろう。京都三大学教養教育研究・推進機構では、教育目標を大きく三点にまとめ、教養教育を通して育成したい人材像を提示している。「何を把握したいのか」と問われれば、本機構が学生に対して提示した教育目標の要素を、学生がどのように自己評価しているのかを把握したいということになる。そして、学生による学習実感を評価指標にして、教育改善の筋道をつけたいというのが狙いである。

京都三大学教養教育研究・推進機構では、機構の教育理念として、育成すべき学生像を次に示すA、B、Cの三点にまとめている。このA、B、Cが学習実感の設問を作る際の基礎となる。

A：人文・社会・自然諸分野の学術の基礎を幅広く修得するとともに、これらへの高い関心を育てること。

B：世界の人々の多様な生き方を感じ、豊かな人間性と高い倫理観を涵養すること。

C：日々社会に生起する種々の問題において、真理や正義を探求する議論に習熟すること。

学生調査の調査票は、このように自大学の教育の目標を反映させる形で、独自に作成しなければならないだろう。多くの大学で使われている汎用的な調査票もあるが、それらは大学間の相互比較

には有益であるが、自大学の教育目標を設問に十分再現していないという点で、欠点を抱える。

評者がひっかかっていることは、上記のように教育目標を設問に落とし込む形で、独自の調査票はでき上がるわけだが、そこで学生の学習実感を聴取することをもって、教養教育の学習成果を測定したといってもよいのかどうかである。

学生から、教育目標の個別要素について学習成果を聞き出すことは教育改善の指標として有益であることは理解できるのだが、教養教育の学習成果の測定というものは、このようなアンケート調査でやるものなのかどうかという疑問が解決されずにいる。

教養教育の学習成果は、一人ひとりの問いに基づいて書かれたレポートのようなものだろう。しかし、すべての学生にレポートを書くことを、組織として課すことは難しい。そのような意味で、アンケート調査は、教養教育の学習成果の測定方法としては、副次的な位置づけだろう。

